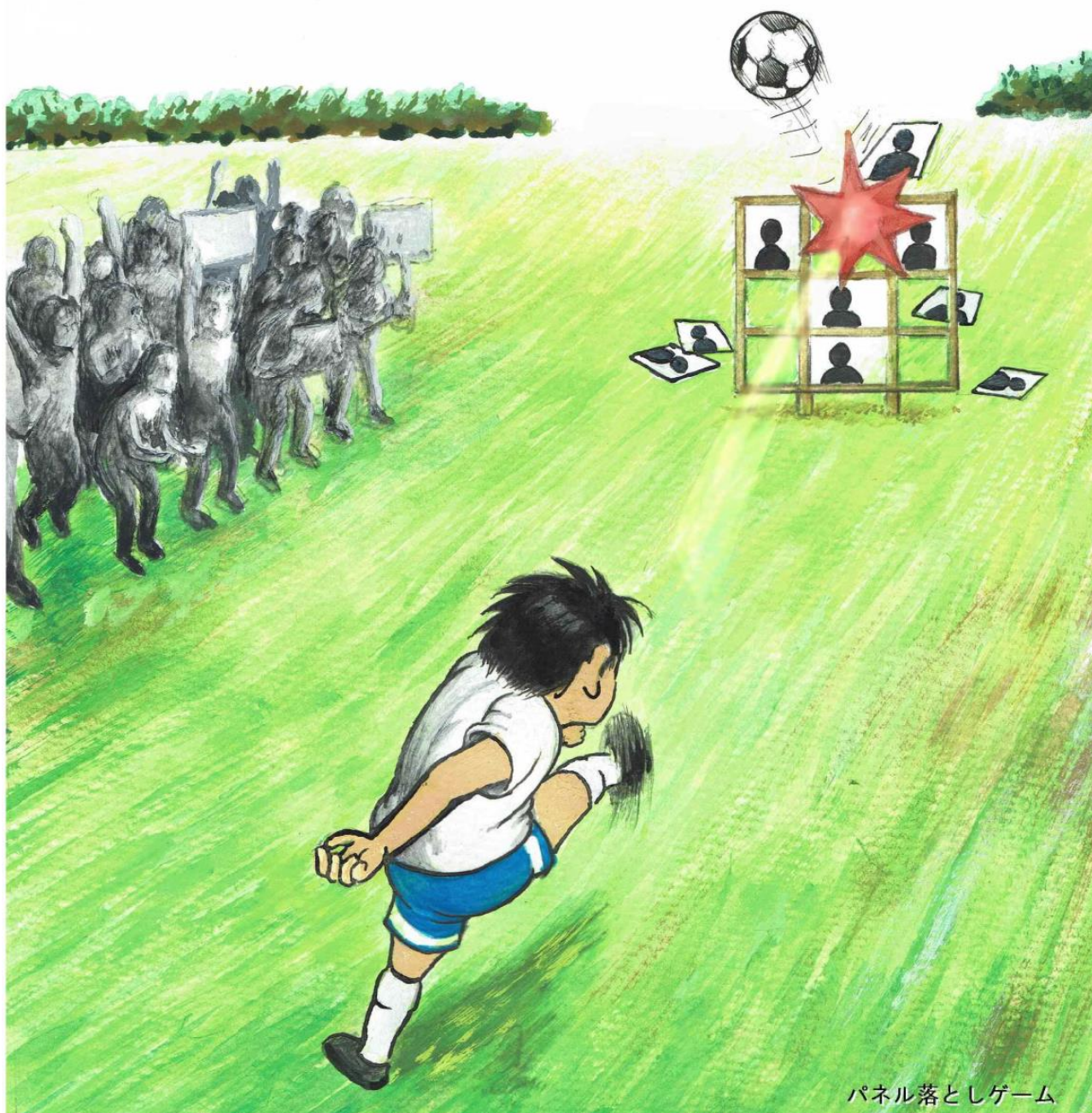


月刊
JMITU

アキコ



パネル落としゲーム

3月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガグループ分会 2024年発行

No.471

2024年春闘 夏季一時金回答

物価高騰下での暮らしを守るためにも、日本経済の「失われた30年」からの脱却のためにも、2024年春闘での大幅な賃上げが必要です。

厚労省の調査では、基本給や残業代などをあわせた現金給与の総額は1人あたり平均で28万2270円と25か月連続のプラスで過去最長を更新しました。

一方、物価の変動分を反映した実質賃金は前の年の同じ月に比べて22か月連続でマイナス。依然として物価の上昇に賃金の伸びが追いつかず実質賃金がマイナスの状況が続いています。

今年の春闘ニュースでは、賃上げ率が5%越え満額回答などと報道されていますが、私たちの会社はどうでしょうか。

セガの回答

会社「現状の制度での昇給理論値は1人当たり6,147円、ベースアップここ数日報道でもされていますが定昇含む5%ぐらいなどと、検討はしているがセガとしては昨年実施している報酬改定でかなり大幅アップしている。年収ベースで15%アップしているので、最終回答ではないがベースアップは考えていない方向。一時金については次回団体交渉で回答したい。」

組合「昨年上げたから、今年はいいでしようという問題ではない、物価は常に上昇して

いる。今までの賃上げでは追いついてない元々賃上げを抑えてきたのだから、ベースアップを検討してほしい。」

次回団体交渉 4月4日

SLSの回答

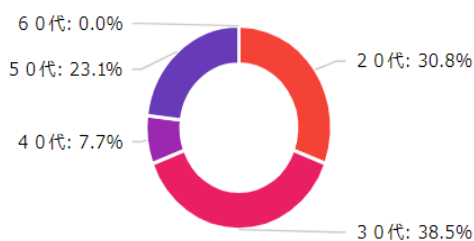
会社「2月の数字を見てから回答の判断がしたい。次回団体交渉で回答したい。」

次回団体交渉 3月26日

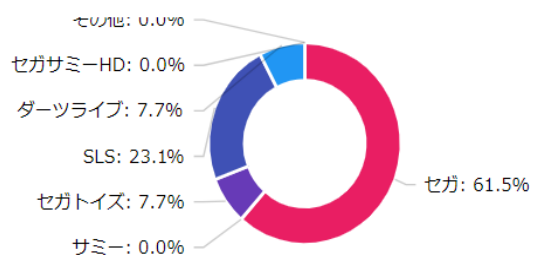


組合アンケート結果

Q2 年齢



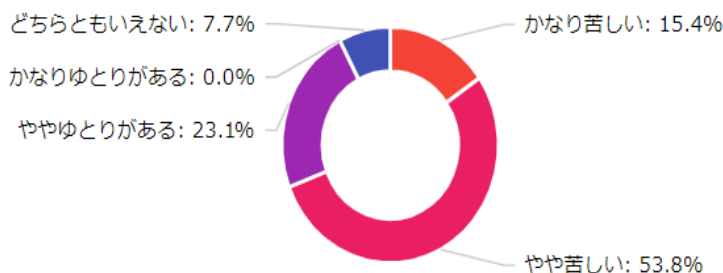
Q1 所属会社は



Q4雇用形態

正社員回答が100%でした。

Q5 あなたの生活実感は次のうちどれに該当しますか。



Q6あなたの月額

賃上げ要求額

平均賃上げ要求額

4万7000円

著しく仕事のパフォーマンスが上がらない。

著しく仕事のパフォーマンスが上がらない。

・SEGAFaveに切り離す理由

・正当に評価されていると感じられない

Q7夏のボーナス要求額

平均要求額(手取り)

82万円

・在宅率がどんどん下がり、ワークライフバランスが悪化している。

・売上げが他社に比べて低いこと。所属している部署の仕事量が多いこと、他社に比べて多くのスタッフが残業していることやその考えが常態化していること、定時で帰りにくい雰囲気。

・業績悪化により、ボーナスが引き下げられ定期昇給を加味しても年収が7%程度減少した。物価高と合

わさり、生活実感としては明らかに以前より苦しくなっている。

Q8今職場で不安、不満に感じる事

・人事評価(不公平)、評価者(評価する立場として相応しくない)この辺を会社が正す姿勢が見られない。

・職場環境に不満はない。

・人員不足

・在宅勤務規制で通勤が増えた為、時間と体力の消費が

・勤怠打刻の無駄な作業

・賃上げは行われたがそれでも物価はなお上昇しておりさらなる賃上げをしてほしい。

・会社経営陣の能力不足売上げが落ちてきている。

・組織形態が概ね5年程度ごとに大きく変わる事に若干の不安を感じる

・

・

・

・

・

Q9会社の現状将来について

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・他社に比べて魅力的な自社IPが育てられてない。

・1年たっても全然昇給しないので毎年確実に昇給するようにしてほしい。

・さらなる賃上げを速やかに実行してほしい、

・経営判断にミスがあるからこそ発生する無駄な開発中止について、二度と何百億という損失を出さないようにしてほしい。

・ハイエナの開発中止における損失は到底許されないことです。なぜそもそも開発を行ってしまったのか。とんでもない損失が出ており会社の経営判断について本当に不安になる。

・現場の声が届かないまま物が決められており、非常に不安

・現社長体制で業績が悪化したので、同じ経営陣が建て直せるのか注視したい。

たくさんのお返事がありがとうございました。その他重複する内容の回答等ありましたがまとめさせていただきます。

賃上げについては、4割の方が5万円、その他10万円や3万円など皆さんの平均を取ると約4万7千円、会社からはよく要求額が高すぎると言われていますが、従業員はこれだけの額を求めています。昨年のセガの賃上げはこれに近い形での回答になりました。

た。決して高すぎる回答ではないという事です。

夏季一時金についても手取り100万円が4割ぐらいその他、80万円、50万円など平均すると82万円になりました。

昨年は夏季一時金セガが係数2.75(平均990,052円)、SLSが係数2.5(879,815円)でした。昨年並みの回答があれば要求は満額になります。

次回の団体交渉では昨年並みそれ以上の回答を期待したいと思います。

またアルバイト、パートなどの非正規社員についても社員同様に賃金を上げるべきです。会社は雇用の形態が違うのだからと言われますが、この物価高においては、雇用の形態など関係ありません。

雇用形態が違うから物の値段も違いますという世の中ではないので、正社員だけでなく非正規にもそれなりの賃金を上げるべきです。

引き続きアンケートは行っていきます。回答の方よろしく願います。



掌編小説

浦島太郎

仙洞田一彦

いつも行く古本屋の棚を見ていたら大岡昇平『レイテ戦記』があった。うちにある本と同じだ。この時、これを読もうと思った。うちにあるから、当然買わない。

なぜ読もうと思ったのか。

去年、父母の戦争時代のことをあれこれ、思いつくままに調べて書いた。その中で父の弟、私からすると叔父にあたる人がレイテで戦死したことを知ったからだ。

何かの折、父から聞いていたかもしれないが、父は戦時中のことはあまり語らなかつた。聞いたとしても、かつては私自身、それほど興味は

なかった。だから、すっかり忘れていたとも考えられる。

春という季節のせいでもないだろうが、その本の背表紙を見て読もうと思った。うちにあるが、読んではいかなかった。本を買うのは読もうと思つたからだ、買ったまま読まずに積んだまま、本棚に並べたままの本は、自慢じゃないがいっぱいある。

フィリピンのレイテ島の戦いは、すでに勝ち目がなく過酷なようだった。特攻隊もこの時に、初めて登場したらしい。叔父の戦死の報告は、戦争が終わって一年も経つていた。だから遺骨も何もなかったのではないかと思われる。帰宅後、本棚を見た。あるべきところにあつたが、なぜか第一巻が無い。第二巻、第

三巻はあつた。本棚には前後二列に本を並べてあるので、手前の列を倒して、後に並んでいるのを見たが無い。その本棚、隣の本棚と見たが、見当たらない。

本を探すために、本棚の前に積んである本の上に重ねたりすることがある。『レイテ戦記』第一巻を、抜き出して、その後ろにある本を取り出すこともある。だが、第一巻を取り出したら、すぐに元に戻し、第一、第二、第三と並べておくはずだ。記憶も、ちゃんと三冊並んでいる状態にある。貸したことはない。今日は読もうと思つたが、以前には読もうと思つて別の部屋に持つて行った覚えもない。

父母の戦時中のことを書いたと言つたが、その書いてい

る途中で必要になり、部屋から出したという記憶もない。

ありうるのは第一巻を本棚の手前の山に積んだままで、また別の本が必要になつたりして、棚から出し入れしているうちに、本棚の前の山に紛れ込んでしまった場合だ。そう思つて、積み替えながら背表紙を見て行つたが『レイテ戦記』は見つからなかつた。

これだけ見つからないのだから、本棚の後に落ちていないかと、棚の下の方の本を抜いて見たが、落ちてはいなかつた。

本を積み替えたり、下を見るために屈んでみたりしているうちに、普段取らない姿勢を繰り返していたので、体が痛くなつた。

こうなつたら、あの古本屋

に行つて買うしかない。大分昔の本であるし、店の外の本棚に出してある位だから、一冊百円か二百円、高くても三百円だろう。もつたいないが、早く読むためにはそれが一番この機を逃すと、読まなくなつてしまうかもしれない。叔父がどんな戦場にいたのか知りたい。本来なら退却すべきはずが、「玉砕」という名の突撃による全滅か。それとも、戦死より餓死、病死が多いという戦場だったのか。

読みたいという欲求が失せないうちに、翌日、出掛けて古本屋の前に立った。

『レイテ戦記』第一巻がない。あるのは第二巻、第三巻だけだ。昨日はあつたはず。確認したわけではないから、あつたと思う、というのが正確か。

これはイヤガラセではないか。

次に来た感情がこれだった。しかし、誰が私に。それには答えられない。全く根拠がない感情だから。そう思うほどシヨックだった。

昨日から今日までの間に客が来て、第一巻だけを買つて行つたということは、無論考えられる。三巻まとまった本だから、ばら売りはしない場合がある。もしかすると第一巻は、はじめから無かつたのかもしれない。

帰つて、食卓の前で第一巻、どうしたのかと、記憶を探つたが何も出てこない。本棚のある部屋に入つて、ぐるりと丁寧に背表紙を見て回つたが無い。昨日もあれだけ見たのだ。山を積み替えて見る気力

がない。

少し遠いが、戦史、戦記物だけを置いている古本屋がある。電車で約一時間。駅からも大分歩く。

そのまた翌日、そこに狙いをつけて出かけた。ただ、その古書店で『レイテ戦記』を見たわけではない。だから無くても仕方ないが、とにかく何かに取りつかれたように出かけた。駅を出て、もうこれ以上歩けないというほどに歩いた。分かつていたから、荷になる鞆は持たなかつた。

商店街だと思われるが、ひどく寂しい感じのするところだ。昼下がりで、会社ではもう午後の仕事が始まつているから人通りがないのかもしれない。

入り口のガラス戸は古いが、

今の私には輝いて見えた。ここに限らないが、古本屋の前に立つと、必ずここにさがしている本はあると思う。そう思つてはいるが、無くてもそうがっかりはしない。必ずあるなんて思うものの、そうた

いした確信ではないのだろう。今もそうだった。

ガラス戸を開けて店の中に入った。雰囲気が違う。手近な棚に目をやったら、本のイメージが違う。背表紙のタイトルが、投資やギャンブルの本ばかりのようだ。以前は太平洋戦争とか、大東亜戦争、ノモンハン、満州といった文字が並んでいた。

ここでも私は自分の記憶を探る。もう何年も、いやそんなに経っていない。前に来たのは一年くらい前のはずだ。

いくら記憶が怪しくなっているとはいえ、そこまで狂っているはずはない。この近所に古本屋はない。何軒かあれば店を間違えるということもあるだろう。こうなったら店主に聞くしかない。

私は店の奥に進んだ。小さい台の前に、丸顔で、年齢は私に近いが、私より年下に見える店主だろうと思われるオヤジが、頭同様てかてかに光ったダウンコートを羽織って座っていた。春分の日を過ぎて春とはいえ、やけに冷え込む日だった。

オヤジは近寄る私を見て、ニコニコしていた。思わずこちらにも笑みが浮かんだ。「前は戦争物ばかりだったようですが」

私は聞いた。

「ええ、ええ、そうです」

その返事で、記憶に違いないとホツとした。オヤジは聞きもしないのに答えた。

「もう戦争物は古いです。今は投資、ギャンブルの時代です。戦争は時代遅れ」

たしかに「こうすれば儲かる」というような題の本が並んでいる。さらにオヤジは続けた。

「まあ、これを読んで儲かったら世話ないです。書いた人だって本当に儲かったかどうか、わかりやしません」

聞きながら、売っている人がそんなことを言ったんじゃないかと、腹で笑った。

「ま、おかしいでしょ」

さすが年の功、私が腹で笑ったことをわかっている。話し相手を待っていたのか、オヤジは

ヤジはどんどんしゃべる。

「こういう本を読んで儲かったら、ここで古本屋なんかしてないですよ」

オヤジの言葉をさえぎって私は聞いた。

「戦争物、もう無いですか」

「ああ、一番下の棚と、一番上の棚にすこしあります」

言われて見上げ、腰を曲げて下を見ると、確かに戦争物が並んでいる。

「本当はね、今の時代こそ歴史を学び、知るべきですよ」

オヤジが言ったが、私はオヤジの演説を聞きに来たわけではないから、無視して、腰をかがめたまま棚の前を行ったり来たりし、見上げたまま行ったり来たりした。オヤジの首も、私が下を見れば下を見て、上を見れば上を見て

た。

「あ、あった」

思わず私は声を上げた。片隅に置いてあった踏み台を持ってきて、それに上り『レイテ戦記』を取った。そこには第一巻しかなかった。

忘れ去られていたように本の天、頭と呼ばれるところにほこりが積もっていた。そのままオヤジの前のカウンターの前に置いた。オヤジは私に立っているのに、無神経にもパンツと本をたたいた。ほこりが白煙のように舞った。オヤジは私を見て言った。

「あ、白髪じじいになった。こりや浦島太郎だね」

私の頭は初めから白い。分かったような、分からないような冗談だが、私も声を上げて笑った。